

Journal of  
Japanese Society of

# Aromatherapy

Vol.10 No.2  
2011

## 日本アロマセラピー学会誌

第14回学術総会号  
プログラム・抄録集

Program and Abstract of 14th Annual Meeting of  
Japanese Society of Aromatherapy  
Tokyo, Nov, 12-13, 2011



## 森林の恵み木々の香りの働きとその利用

谷田貝 光克

(NPO) 農学生命科学研究支援機構

地球温暖化が進むなかで、温室効果ガスを蓄積する化石資源に代わり、カーボンニュートラルな植物資源、なかでも最も蓄積量の多い森林資源の有効利用が注目されている。一昔前までは樹木等森林植物からの林産物は生活の大きな糧だった。それが、科学技術の進歩に伴い、化石資源から多くのものが大量に安価に製造され、天然素材の製品に置き換えられていったのである。合成品の到来により生活は便利になった。しかしながら知らず知らずの間に残留毒性、室内空気汚染などの環境汚染に触まれ始めたのも事実である。そのようななかで再び森林資源の恵みを見直し、利活用しようという研究も活発化している。

森林樹木は従来からの家屋用材やパルプ用材としての利用はもとより、最近ではバイオエタノールやガス化、ペレット等エネルギー利用への技術開発も盛んに進められているが、古くからなされてきた精油・樹脂などとして、あるいは薬木薬草などとしての成分利用も、現代の目で見直し、新たな利用技術の開発が行われている。木々の香りの生理活性に関する研究もその一つである。古くから利用されてきた木々の成分も角度を変え、視点を変えてみれば新たな働きを見いだすことが少なくない。それらの働きを現代の新しい技術で見いだし、有効に活用することが、疲弊した現在の森林に活気を取り戻させることにつながるのではなかろうか。

森林樹木の香り、精油には抗菌作用、殺虫作用、抗酸化作用など、これまでも幅広い生理活性が見いだされている。最近ではスギ精油がスギの花粉症やアトピーの治療に効果があることや鎮咳効果があること、セイヨウネズの果実の香りやヒノキ材精油に肥満抑制効果があること、モミや月桂樹のにおいが視覚作業後の目の疲れを癒すことなど、新たな視点からの樹木精油の効果が見いだされている。また、教室内装に用いた木材からの香りが気分を鎮め、学習効果を上げるのに役立つことなど、木質内装材のもたらす影響なども調べられている。

これらの有用な働きをする樹木精油を見捨てられている林地残材から有効に採取するために最適採取時期、移動式精油採取装置の開発、さらには精油の生理活性を活かして製品開発を行い、快適な室内環境創出のための利用技術の開発も試みられている。

**【プロフィール】**

谷田貝 光克 (やたがい みつよし)

(NPO) 農学生命科学研究支援機構理事長，香りの図書館館長。東京大学名誉教授。

昭和18年，栃木県宇都宮市生まれ。東北大学理学部化学科卒，同 大学院理学研究科博士課程修了(理学博士)。米国バージニア州立大学化学科博士研究員，メイン州立大学化学科博士研究員，農林省林業試験場林産化学部研究員，炭化研究室長，農水省森林総合研究所生物機能開発部生物活性物質研究室長，森林化学科長，東京大学大学院農学生命科学研究科教授，秋田県立大学木材高度加工研究所所長を経て，現職。

**【受賞】**

日本農学賞，読売農学賞，科学技術庁長官賞(研究功績者)，日本木材学会賞，かおり環境賞

**【専門分野】**

天然物有機化学

**【趣味】**

登山，山の散策，飲酒・歓談(酒を楽しく飲める人に悪人はいないと信じている)